

問 白馬高校寮の運営主体は

答 村の一般会計であり、白馬村になる



太田伸子議員

【白馬高校支援について】

問 白馬高校寮取得の経緯は。

村長 費用の関係から既存の旅館等で寮として使用できそうな物件の所有者と交渉してきましたが、いずれも不調に終わり、ようやく現物件と交渉が始まったという経緯です。

問 寮の運営方法は。

村長 白馬・小谷両村で行います。舎監1名、管理夫婦2名、その他お手伝いに数名寮運営等に実績のある専門家にも協力いただきます。

問 思春期の生徒の生活面を両村で見るといことは、

問題が起きたとき村長が責任を取るようになるが。

村長 白馬村が事業主体で運営するので、責任者は村長です。

問 加速化交付金を充てるといふ説明だが、交付金の趣旨は。

村長 公営塾や寮の運営等に関する経費について、申請をしています。交付金の内示が間もなくあると思いますが、申請が通れば当初予算と重複する部分は、6月議会で減額補正する予定です。

【寡雪対策について】

問 寡雪対策本部立ち上げの経緯は。

村長 1月8日に「白馬村寡雪対策本部設置要綱」を制定し、同日付で「白馬村寡雪対策本部」を設置。総合的な対策を推進することを職員に命じました。

問 寡雪状況に伴う情報の収集結果は。

村長 1月15日に実施した調査では、64の宿泊業者の回答で損失額は約6810万円、6の索道事業者における損失額は約3億2600万円でした。

他にも除雪出勤機会が減少し、ガソリンスタンドにおける軽油の売上げが大幅に落ち込んでいる状況です。

問 寡雪対策としての村長の施策の考えは。

村長 寡雪対策として誘客促進事業に補正予算を計上しました。観光関連事業者との情報交換会では、リフトや人工降雪機等の施設整備支援、宿泊業者からは資金の支援を求める声が多く寄せられました。インターネットを活用し、今後に続くプロモーション事業を重点的に実施することになりました。

【第5次総合計画等、村の施策について】

問 総合計画の基本構想が未だ策定されていない中で、村長の28年度の重点施策は。



3月26日白馬高校入寮式

村長 村営住宅建設事業、庁舎・多目的研修集会施設耐震等改修事業、白馬高校支援事業、国体開催事業、ふるさと納税事業、第5次総合計画策定事業などです。

問 平成28年から10年間の白馬村の総合計画である。

村長 基本計画が28年9月頃までずれ込むと言われている。行財政の計画的運用は。

村長 今後10年間の財政計画や、財政シミュレーションを都度行い、財政健全化に向けた計画的な運用を図ります。

問 村民が観光に積極的に協力している事業である白馬駅前の無料休憩所や、姫川源流福寿草祭りのような少額の補助金を減額する理由は。

課長 苦しい財政事情から減額になりました。

問 今後の5年間の村が目指すべき将来の姿を定めた最も重要な白馬村総合戦略の内容については、ホームページか総務課に問い合わせるなどのことだが、村民に知らせるための説明会などの計画は。

村長 概要版を作成して全戸配布を検討します。